会 議 録

1 附属機関等の会議の名称　令和3年度第1回丹波篠山市図書館協議会

2 開催日時　令和3年5月27日(木) 13:30～15:30
（傍聴の受付時間　13:15～13:25）

3 開催場所　丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール

4 会議に出席した者
(1)委　員　杉本克治、木村 研、中西文枝、溝畑あけみ、西野裕子、
長澤一正 （欠席 向井祥隆）（敬称略）
(2)事 務 局　教育長 丹後 政俊、教育部長 小林康弘、館長 小畠理三、
参事 中筋吉洋、係長 徳田実穂、司書 小土井月瀬

5 傍聴の人数　0人

6 会議の公開、非公開の別　公開

7 審議の概要
1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. あいさつ
4. 会長、副会長の選任
会長 中西文枝氏　副会長 向井祥隆氏
5. 報告事項
（1） 令和2年度図書館事業報告について
（2） 令和2年度図書館利用状況について
（事務局より説明）
（委員） 資料P2「市民センター図書コーナーの運営」で今後、こどものともの雑誌購入は良いことである。バックナンバーの購入予定はあるのか。
（事務局）本郷図書館時代のこどものともが市民センター図書コーナーにある。中央図書館にもバックナンバーがある。
（委員）中央図書館と市民センター図書コーナーそれぞれ購入しているということか。
（事務局）そのとおり。図書コーナーで複本の購入を開始した。
（委員） 市民センター図書コーナーの本も中央図書館の本も同じ予算枠なのか、市

民センター分の予算枠があるのか。

（事務局）市民センター図書コーナー分の枠と決まった額ではなく、中央、市民あわせた予算枠である。

（委員） 配本所の充実、利用促進について、出張図書館を利用して行われているが、利用は増えているのか。図書コーナーで会った東部の若者で配本所をご存知ない方がおられ配本所で借りることも返すこともできることをお伝えしたが、実際に状況はどうか。

（事務局） 新規利用の方で何人か配本所への配達希望の方が増えているのを実感している。

（委員）出張図書館での広報活動が功を奏してきたということか。

（事務局）令和2年度は、多紀地区の文化祭で出張図書館を予定していたが新型コロナウイルス感染症感染予防で文化祭が中止となった。しかし、多紀地区のまちづくり協議会に周知チラシを配布いただき知っていただいた方もおられたかと思う。また、子育てふれあいセンターとも連携し城東公民館等で実施し周知することができた。

（委員）微増かもしれないが引き続き取り組みをお願いしたい。令和3年度から市民センター図書コーナーの体制が変わり活動が広がっていく可能性もあるためこれまで課題であった東部地区の利用増につながればと思う。

（委員）P4の高齢者・障がい者サービスの充実と外国人サービスの充実の利用はどのくらいか。デイジー図書の利用は何人か。図書館が対面朗読はしているか。

（事務局）デイジー図書のご利用は 1 人である。図書館が対面朗読はしていない。付添いの方と部屋を使用されている。

（委員）1人ではもったいない。利用啓発の周知の必要があると思う。

（事務局）今後、高齢化率が高くなり、聞く図書についての需要も増えてくると思われるため周知方法を考えて利用啓発していく必要がある。

（委員）生涯学習の枠だけでなくいろんな施設との連携の中で PR していく必要がある。知らない方も多くいるのでないか。外国人サービスについても国際理解センターとうまく連携していく必要がある。本は使用されてこそである。

（委員）高齢者施設等にもパンフレット等で周知してはどうか。外国人サービスについてもどのように周知を図るか、また、こどもたちもいるので団体貸出も活発にしていくことで利用促進が図れる。

（委員） 今、新型コロナウイルス対策をしながら図書館が開館していてありがたい。令和2年度は2か月間ほど休館だったと記憶している。緊急事態の場合に指針を置き、なるべく図書館を休館せず、接触をせず運営できる方針を決めておけばよいと思う。大阪等では休館しているところもあるが、なるべく開館しながら、ネット予約の受取のみや、こどもたちのテーマごとに置いて貸し出しするなど、サービスを考えて

もらえればと思う。

（事務局） 基本は近隣市（三田市、丹波市）の状況とできるだけ合わせる形で図書館サービスを考えている。現在、緊急事態宣言中だが兵庫県立図書館の開館状況にあわせている。コロナ禍で家で本を読むという利用者もいるため感染予防対策を徹底し開館したいと考えている。貸出方法などの手段については今後司書と前向きに検討していきたい。

（事務局）補足で、基本的には図書館が運営できるかどうかは国から緊急事態宣言が県から要請して、国が判断し県におりてくる。県が対処方針を示し、対処方針に沿って各市町が対策本部を開催し、開館するのか、閉館するのか、時間限定にするのかなど運営を決定するため、各施設で個別に対応を決定するのは難しい場合がある。その中で、開館はしないが独自施策としてネット予約の受取を行うなど、可能な場合もあるため独自の方法を考えていおくことも大切だ。現在は兵庫県から図書館開館でかまわないということだが、前回は休館せよという方向だったので休館していたのが実情である。今後うまくコロナとつきあっていくという方向性が求められている。

（委員） ネット予約だが、現在まで貸出中の本にしか予約できないが、今後在架の本、貸出されていない本にも予約ができるようにしてほしい。2．3冊からでもできればありがたい。前回の図書館協議会にもお願いしていた事項である。司書の負担もあると思うが、可能な限りできる方向で考えてほしい。今後、コロナで休館となれば、なおさら利用者にとってはうれしいことである。

（事務局） 月末ミーティングで司書、職員と現状報告等話し合う機会があり、ほかの利用者からも在架予約の希望も聞かせていただいている。情報共有して考えていきたい。

（委員） 市民センターでボランティアをしていたときに何人かの方から在架予約の要望を聞かせていただいた。検討いただきたい。

（委員） P6司書の企画立案、実行についてだが、七夕会やおはなし会のイベントの対象は、こども向けのみの企画か。

（事務局）七夕、10日だけとしょかんの日も来館者すべてであるため大人も対象としている。本の福袋も子ども向けから大人向けまで用意している。

（委員） 司書の研修は、順番に行き、いつも同じ人が行くということではないか。また、研修内容の共有はしているのか。

（事務局）図書館サービス内容の経験年数によってそれぞれ研修があるため順番に行っている。研修記録を作成し、研修資料とともに供覧し情報共有している。

（委員） レファレンス機能の充実は、次のビジョンにもかかわってくるところだが、メールでレファレンスを受け取り実施しているところがある。コロナ禍で図書館に行けないとか多忙の方にも必要なサービスである。

（事務局）開館当初から電話、FAX、郵便、メールのレファレンスは全国各地実施している。それを含めた件数である。

（委員） 10年で343件か。国立国会図書館のデータベースにはまだあげられない件数ということか。

（事務局） 国立国会図書館に登録はできても、レファレンス内容が検索しても出てこない図書館もある。今はデータを蓄積している段階である。

（委員） メールでのレファレンス件数は年間どのくらいか。

（事務局） 年間数件である。

（委員） 次のビジョンでは、レファレンス機能をもっと活用しなければいけないことを入れたほうがよいと思う。図書館は本屋や貸本屋という感じであるのではなく、調査研究のために図書館はあるのだと。自治体の図書館はまちづくりのために活用されるべきものである。もちろんこどもたちのために開かれた図書館であることも必要だが、ビジネスやまちづくりの問題点のレファレンスを受けて対応できるアカデミックな図書館になってもらいたいと思う。丹波篠山の施政方針60数ページあるのを拝見した。15分野別に分かれていて取り組む内容が書かれている。文章に熱量があり文体がアカデミックである。いろいろな市の施政方針も見ているが丹波篠山のは良い。あれだけの文章を読み解き、具体的に内容を理解している人はどれだけいるのか。図書館がもっと情報発信するべきであると考える。レファレンス機能がありいろんな分野のビジネスをする方が、メールを送っておけば2.3日後には、ほしい情報が手に入り仕事に欠かせない図書館と思ってもらえたら、リモートで入ってきた方も地元図書館をあてにできる。都会に住むのと田舎に住むのは情報量の違いである。環境のいいところに来たが情報が手に入らない。地元の図書館をあてにできるかできないかで大きなちがいがでてくる。篠山に戻ってきたいと思ったときに支援してくれる図書館があれば、こっちに戻ってきても仕事ができると思ってもらえる。私が図書館学を習った先生は、きみたちがいつか結婚したり就職した町でどのようなまちだろうと思ったときに図書館に行ってごらん。図書館がどういう動きをしていてどんな資料があるか、どんな方が借りに来ているか、それを見たらわかる。図書館学を学んでいない方でも住もうと思ったけど図書館が貧弱だから定住する場所を変えるというのを新聞で読んだ。図書館は要だと思う。343件が多いか少ないかわからないが、レファレンスにもう少し力を入れて充実させ、もっとPRしてほしい。

（事務局） 図書館システムにH29からデータ登録したのが郷土資料343件である。一般的なレファレンス内容は、紙ベースでは残っているが、データ入力ができていない。

（委員） 新ビジョンにはそれも課題になるのではないか。郷土資料だけでなく、行政課題が図書館にどれだけ役に立つかということ、いろんな企画担当部署と話合い、図書館が行政課題に関わっていくことをしないと自治体の持つ図書館としては貧弱で

あると思う。商業データベースを整備し、同時にビジネスに活用してくださいとPRをすることがよいと思う。図書館を活用されないと司書のレファレンス能力が上がらない。立派な図書館があるのだから趣味や娯楽に興じる資料のみ集めているのはいけない。もっと分野を広げたレファレンスをしてもらえるようPRに力を入れてほしい。

（委員） P5図書館見学の受け入れについて、小学校7校幼稚園2園は例年にくらべてどうだったか。団体貸出について、小学校は非常に助かっている。児童クラブは全児童クラブなのか。

（事務局） 図書館見学は令和2年度はコロナ禍により中止するという学校もあり例年よりは減っている。児童クラブへの貸出は全児童クラブではない。配達している児童クラブは城南児童クラブのみである。幼稚園はたまみず幼稚園である。

（委員） 配達していただけるなら放課後の幼稚園のあずかり保育やその他の児童クラブもあるので、外で遊ぶだけでなく、本があるとさらに充実した過ごし方ができる。

（事務局） 団体用のカード作成を作成いただきご利用いただければと思う。

6．協議事項

（1） 令和3年度図書館主要事業の概要について

（事務局より説明）

（委員） 図書費が今まで1,500万円だったが今回 1,147万円になった理由を教えてほしい。

（事務局） 1,500万円で要求していたが、新型コロナウイルスによる県税、市税減見込みから査定で減額となった。今後も1,500万円で要求予定である。

（委員）図書コーナーの体制も中央図書館と一体となり、図書費は増になるかと思ったが、減額であったので心配した。今後も要求をお願いしたい。

（委員）市民センターのボランティアをしているときに本が古いと利用者に言われ続け、今年度から体制が変わるので、期待してくださいとお伝えしていたが、こどものともを購入することは明確に言っていただいたが、中央図書館と市民センター図書コーナーの購入計画はないのか。

（事務局）市民センター図書コーナーは、現時点ではどの分野の書籍をどの程度収集するかは未定だが、運営体制が変わり、市民センター図書コーナー担当として2人の司書を専属としている。できるだけ市民ニーズに沿った選書をし購入していきたい。今日、図書コーナーの看板と図書費をご寄贈をいただいた。図書費のご寄贈を活用させていただきたい。「市民センター図書コーナー変わったな」と利用者に見える形で PR もさせていただく。

（委員）期待していいんですね。

（事務局）はい。

（委員）P9学校園との連携だが、学校図書館支援員は何人いるのか。

（事務局）3人いる。小学校は平成23年度から、中学校は平成31年度から開始してい

る。主な活動内容は、環境整備、図書の相談、書棚の整理などで担当は学校教育課の事業である。

（委員）学校図書室へのバックアップでしていると思うが学校図書館支援員との連携の中で問題点はあるか。

（事務局）特に問題点は聞いていない。

（委員）支援員の立場、活動内容はどういうものか。学校図書室のバックアップか、それとも図書担当先生のバックアップか。

（委員）私の知る範囲では、学校図書館の整備、図書館担当教員と連携していただいている。支援員が来られる前と今と比べると非常によくなった。レイアウト、課題図書はもちろんのこと、おすすめ本や本の貸出業務などもしていただいたり小学校は非常によい形になっていると思う。

（委員）児童とも仲良くされているか。

（委員）児童と仲良くなる方もいるし業務をこつこつされる方もいる。それぞれの個性でやり方はいろいろあると思う。

（委員）読み聞かせはしないのか。

（委員）支援員が必ず読み聞かせをしているわけではない。読み聞かせは読み聞かせグループの方が週 1 回、朝などに来られて読み聞かせをされている。

（委員）支援員は図書室と資料の整備か。

（事務局）資料整備が中心である。先生から依頼があれば入力はするし、先生がされているところもあると聞いている。

（委員）支援員の活動内容は学校や支援員によって異なるということか。

（事務局）先生からの依頼内容がそれぞれ異なり対応されているようである。

（委員）小学校は週1、中学校は月1回か。

（委員）中学校は、5校と特別支援学校の6校を1人が回られるため1月半に1度である。図書室の整備をされている。生徒が図書室を利用するのが昼休みが多いので生徒との関わりはあまりない。学校図書館の選書の相談や、図書室の環境整備、古い本の廃棄図書の手続きをしていただいている。図書の先生は支援員がいつ来られるかは分かっているが、その他の先生は知らない状況である。

（委員）学校側から支援員に対して、どの学校も同じ状態まで持っていこうということを言われているのか。

（委員）小学校はだいたい同じレベルまで整備がされ、環境も整っていると思う。図書館教育研究部会が今は担当者部会に変わったが、支援員に講師に来ていただいたこともあり、こどもたちが興味ある本や本の置き方など教えていただいたこともある。図書館システムが入っているし、どこも同じ状態までになっている。学校教育課指導主事が実態の確認、進捗確認等もされている。学校側はより支援員とやりとりをして活用方法を工夫する必要もある。しかし小学校は、図書館担当者だけではなか

なか整備ができない状況で、担任を持っていて夏休みしかできなかったところもあった。支援員がいることで助かっているが、連携の仕方はまだまだ研究の余地はあると思う。

（委員）中学校は今同じ方がまわられている。支援員が来られたことにより、図書室の本の整理、整備を計画的にしていただいているため環境がよくなったと思うし助かっている。

（委員）10年ほど前、学校図書室に連れて行ってもらったがその当時古い本ばかりで入れ替えをしてあげたいと思ったのと、どんなに良い本でも、こどもたちは新しい本に興味がある。どこの学校にどのような本があるのかをオンラインで結ぶというのがよいと思った。学校同士で貸し借りができて同じ本を買わなくても済む。隣の学校がどのような本をもっているか検索はできないか。

（委員）となりの小学校に本を取りに行くよりも図書館から1クラス50冊配達の方がよい。他の学校にとりにいくよりも図書館に「調べ学習でこの内容でしているのでこのような内容の本を集めて入れてほしい」とお願いした方がよい。また、10年前の学校図書室とかなり状況はだいぶ変わりよくなっている。先生も選書の仕方が変わってきて、新しい本も入れている。予算の範囲内とはなるがPTAからも予算をいただいているのでそれをうまく活用させていただいている。10年前とはずいぶんよくなっており変わっている。中央図書館の業務と学校の図書の予算とうまく連携させていただきたい。学校に1冊良い本があっても困る。調べ学習で複数必要になる。中央図書館から同じテーマ内容の本を複数借りたり、学校で購入したりしている。連携でうまくいっている。現在、昔ほど本がなくては困るということはなく、本のみでなくコンピュータ環境が整備されておりデジタル教科書もあるため、以前より調べやすくもなっている。両方を活用しながら、また新しい時代の学校図書館の方向性についても考えていかないといけないと思うが、その示唆をしていただける図書館支援員と連携を図って図書室を充実させていきたい。

（委員）より充実を図るため図書館支援員の充実を図り、3名が4名に、中学校は週に1回来られるようになれば、よりよい学校図書館運営ができると以前から思っている。検討をお願いしたい。

6．協議事項

（2） 図書館ビジョンの取り組みについて

（3） 第2次丹波篠山市立図書館ビジョンの策定について

（事務局説明）

（委員）アンケートはどういうかたちで実施するのか。郵送か、図書館に来られる方だけか、年齢や地域など無作為に郵送するということか。

（事務局）学校関係は学校と調整し児童生徒にアンケートを取らせていただく。利用者は図書館と市民センター図書コーナーにアンケートを設置する。企業によるまちづく

りも活発にされていることから、企業の考えも集めていきたい。創造都市課で事務局があるため連携しアンケートを取り組みたい。図書館を利用されていない市民アンケートは無作為で郵送するのか、市民センターや市役所等の公共施設等にアンケートを配置しご記入いただくのか今後検討していきたい。

(委員)何人を想定しているのか。

(事務局)トータル1，000人で考えている。

(委員)アンケート内容をデータ集計するということか。

(事務局)そのとおりである。

(委員)アンケート対象だが、図書館はボランティアとの連携が重要と思うため、図書館ボランティア団体には積極的にアンケート依頼をしたらどうか。

(事務局)アンケートは図書館ボランティア団体の方にもご協力いただきたく調整させていただきたい。設問は現時点での案であるため、それぞれのお立場でご意見いただけたらと思う。

(委員)P23丹波篠山市の図書館サービスの将来像・考え方であるが、施政方針の中に行政戦略の中に図書館を位置づけることができるため、公共図書館の役割として行政にかかわっていくべきである。施政方針の内容を図書館の将来像の考え方の中に加えていけばよいと思う。

(事務局)参考にさせていただく。

(事務局)アンケートだが、P22スケジュール(案)にアンケートの対象として、市民、利用者、ボランティア等予定しており、アンケート用紙もそれぞれ対象によって内容を複数考えられるため、それら含めて検討していきたい。

(委員)今の図書館ビジョンを再度目を通して、アンケート内容も検討した方がよいと思う。図書館ビジョンの進捗であるが、いままでの終了事項等の説明もあったが、毎年、思っていたのだが継続とか終了とか、矢印表示の表だけでは詳細が分かりにくかった。漠然とできているのだなと認識していた。数値で表すのがよいのか、具体的な言葉で表すのがよいのか、表記の仕方を変えるとか、課題として分かりやすく表示していただきたい。

7. その他

(事務局)　○次回第2回協議会の日程調整

令和3年7月16日(金)13:30～中央図書館視聴覚ホール

○アンケート(案)に対する意見　6月15日(火)まで

8. 閉会